**御殿（ウルン）の木**

この古樹は、地元では御殿（ウルン）の木として知られています。アカテツ科の常緑樹で海岸近くの低地に育ち、風除けや家の囲みに使われることの多い木です。樹齢400年以上と推定されているこの木は、高さ約12mに達しており、楕円形の樹冠は南北13m東西18m以上に広がっています。この種としては、沖縄県内で最大の大きさと考えられています。

種子取りは、翌年の収穫のための種籾が地域の農家へ配られる重要な祭りでした。この木の下で、昭和（1926–1989）初期まで行われた行事でした。祭りの期間中、藁葺き屋根の小屋（地元の方言で「御殿（ウルン）」として知られる神聖な構造物）がここに設置されました。島民が常に特別に手入れしてきたこの木は、1998年に村の文化財として天然記念物に指定されています。